

## 第4回金沢大学がん進展制御研究所・ソウル国立大学がん微小環境研究センター 合同シンポジウムを開催

2019年5月13日

2019年5月13日(月)、ソウル国立大学薬学部講堂(韓国)にて、“Tumor Microenvironment and Precision Medicine”と題して、ソウル国立大学がん微小環境研究所(SNU-GCRC)と金沢大学がん進展制御研究所(KU-CRI)のジョイントシンポジウムを開催しました。2016年4月に金沢大学において、本研究所とSNU-GCRCとの研究連携協定を調印し、それ以降、毎年金沢およびソウルで開催しているもので、今回は第4回になります。

本研究所から矢野聖二副所長を含む7名(矢野、松本、大島、今村、田所、村上、平田)が参加して口頭発表し、SNU-GCRCからはYoung-Joon Surhセンター長以下、5名が口頭発表し、SNU薬学部の大学院生を含む約50名が参加しました。

最初に、Surh博士からSNU-GCRCとKU-CRIの連携の重要性と、これまでのジョイントシンポジウムの歴史についての話を含む開会挨拶がありました。発表会では、肝臓がん、肺がん、乳がん、大腸がん、白血病などの多岐にわたるがん種の発生や転移・薬剤耐性機構などについて、増殖シグナル分子の新しい役割や新規阻害剤開発、腸内細菌叢や代謝の関与、幹細胞の制御機構、そして微小環境によるdormancy制御機構など、様々な角度から実施された研究内容が発表されました。発表内容は、Cell Metab、Cell Stem Cell、Nat Chem Biol、Nat Commun、Cancer Resを始めとする学術雑誌にin pressも含めて最近発表された成果や、未発表データなども紹介され、とても内容の濃い議論を交わす1日でした。最後に矢野教授が閉会挨拶を行い、発表の総括と将来に向けた研究所間連携が確認されました。

翌日の5月14日(火)には、SNU-GCRCに所属する大学院生および若手研究員による研究発表会が開催され、本研究所からの参加者とのディスカッションが行われました。がんの炎症性微小環境の制御機構に着目した研究内容が多く、Keap1/Nrf2の新規制御機構や、サイトカインと分泌型膜タンパク分子によるマクロファージ活性化機構など、大変興味深い研究が推進されていることが印象的でした。

SNU-GCRCとの連携をきっかけとして、これまでに金沢大学がん進展制御研究所とソウル国立大学との共同研究が推進され、博士研究員(JSPS 外国人特別研究員)の受け入れや若手研究者の短期人材交流、国際共同研究の論文発表につながっており、今回のシンポジウムを通して新たな共同研究の機会が生まれることが期待されました。

(報告：腫瘍遺伝学研究分野 大島正伸)



シンポジウム集合写真: 前列右から4番目が Young-Joon Surh 教授 (Director, SNU-GCRC)



矢野教授挨拶



シンポジウム会場風景



金沢大学がん進展制御研究所からの派遣メンバー